

✦ ご挨拶



ふと空を見上げると、青空へ向かってどこまでも高く花開く、花水木。そして足元には芝桜の可憐な花々と、心躍る季節の到来です。さまざまな可能性に満ちた4月、当院も改装して心機一転です。今後とも皆様にご満足をいただけるよう地道な努力を重ねたいと存じます。何卒旧倍のご厚情を賜りますようご挨拶かたがたお願い申し上げます。

✦ 全てのマイナスはプラスに変わる

353億円の赤字を抱え、2007年事実上破綻した北海道夕張市。行政サービスは切り詰められ、人々の生活は大きく変わり、若者が街を出ていく。そんな苦境にありながら、既に140億円もの金額を返済したとのこと。

夕張市の破たん前・破たん後	最盛期	破綻直前	現在
人口 (*1)	116,908人	13,268人	8,305人
小学校	22校	6校	1校
中学校	9校	3校	1校
市職員 (*2)	—	263人	97人
軽自動車税	—	7,200円	10,800円
施設使用料	—	—	50%引き上げ
下水道	—	1,470円	2,440円
ゴミ処理	—	—	1リットル2円
市長給与	—	862,000円	259,000円
職員給与：基本給 (*3)	—	—	平均15%削減

*1) 人口は最盛期が1960年、破綻時が2006年3月、現在が2018年3月時点

*2) 市職員数は、22名が他自治体からの派遣職員

*3) 2009年までは平均30%削減、2014年まで平均20%削減 (日経電子版より転載)

超緊縮財政のもとでは、当然「医療サービス」も例外なく縮小し、総合病院が診療所に変更。市内にはMRIやCTも無く、人工透析は廃止、病床数は171から

19に減少と、改悪の一途をたどったようにみえます。

しかし実際に起こったことは、『死亡率・医療費・救急車の出動回数』の全てが下がった！ということでした。



自分たちでなんとかしなければ！ = 【病院を頼れないとする市民の自覚】が、この改善をもたらしたといえるのでしょうか。

鈴木直道夕張市長は言います。「人口減少や少子高齢化・財政難など、マイナスすぎる要素ですら、どれもポジティブに変更できます。高齢化率の高さは、厳しい難局に立ち向かってきた『経験豊富な知恵ある人』がたくさんいるということですし、財政難もお金が無ければ、どうやってやりたいことを実現させるか、という発想になるのです。」

問題に直面した時、様々な視点から物事を熟慮し、問題を乗り切る能力に長けている、ご高齢の方の知恵を活かした生活の見直し。夕張市で起こった出来事は、私達にもヒントを与えてくれるような気がしませんか？

私達の体は約60兆個の細胞で出来ています。細胞は大人になっても毎日少しずつ新しいものへと入れ替わり（歯のエナメル質など一部を除く）、そのスピードは粘膜系で数日、血液で約4カ月、骨だと約5カ月と言われています。この新陳代謝のスピードは人によって差がありますが、私達の「食べたもの」が材料となって細胞を作っているのです。

食事は、加工・精製食品を避けた、自然のままのシンプルな食べ物を採る食生活が重要です。加えて、食べ物をしっかり咀嚼（そしゃく）できることが必要だと考えます。自分の健康に対して向き合うこと、それは「消化器官の入り口」となる、ご自身のお口の中を見直すことが出発点になると思われませんか？いま、よく噛めていますか？お口のなか、大丈夫ですか？